

府民・職員への人権侵害に断固として抗議する

6日、橋下知事が府立国際児童文学館を「隠し撮り」したという衝撃的な事実が報道されました。報道によれば、知事は「隠し撮り」について「民間では当たり前」「漫画図書館だ」「努力が見えない」などと述べ、他の施設にも各部署に隠し撮りを指示したとしています。

「民間では当たり前」？

明白な人権侵害である「隠し撮り」が「民間では当たり前」とは到底考えられません。9月議会では存廃が

児童文学館の利用実態調査

橋下知事「隠し撮り」

大阪府の橋下知事は6日、来年度中の廃止方針を決めている国際児童文学館（吹田市）について、報道陣に対し、「8月に館内をビデオで隠し撮りした。利用者を増やす努力をした形跡がない。議会に証拠を

持っていきたい」と述べ、私設秘書を使って利用実態をひそかに撮影していたことを明らかにした。存廃問題が議論になる9月議会で、同館を廃止し、冊の蔵書を府立中央図書館に移す方針を表明している。

橋下知事、府立施設を「盗撮」

大阪府の橋下知事が、府立中央図書館（大阪市）への移転が決まっている府立国際児童文学館（吹田市）の現状把握のため、私設秘書を使って施設内をビデオで撮影したことが6日、分かった。橋下知事はその後、他の施設も同様に調査する可能性がある。

橋下知事は6月、大阪維新アロケで、同館を廃止し、冊の蔵書を府立中央図書館に移す方針を表明している。この方針は、府立中央図書館の蔵書と併せて、府立中央図書館に保管されることになる。橋下知事は、この方針を表明している。

職員の仕事ぶり「隠し撮り」

大阪府の橋下知事は6日、府立中央図書館（大阪市）への移転が決まっている府立国際児童文学館（吹田市）の現状把握のため、私設秘書を使って施設内をビデオで撮影したことが6日、分かった。橋下知事はその後、他の施設も同様に調査する可能性がある。

議論され、主要四会派が存続を求める情勢の中で、知事感覚に合わないものはすべて廃止をゴリ押しするための暴挙であり、府政の私物化・独裁以外の何物でもありません。知事は昨年6月にフラッシュ（光文社）記者に写真を撮られたことに、「威圧感を与えた」として提訴しましたが、自らは職員・利用者ビデオで「隠し撮り」し、議会で公開するなど、言語道断です。

さらに橋下知事は、部局に対して他の施設にも「隠し撮り」を行うよう指示したと報道されています。これが事実であれば、府庁全体が常に「隠し撮り」の恐怖と人権侵害にさらされ続けることとなります。この暴挙に、府職労は満身の怒りをこめて抗議するものです。

事実歪曲の「漫画図書館」発言

また知事は、国際児童文学館になぜ漫画があるのかも理解していないようです。散逸しがちな児童書は国会図書館にも蔵書がないものも多く、とりわけ漫画雑誌などは入手困難です。鳥越信氏（早稲田大教授）の12万点に及ぶ個人蔵書が研究者のよりどころとなっていました。個人では永代的な管理も難しいため、条件付で寄贈先を全国公募し、当初は滋賀県が譲り受ける予定だったものを、大阪府が鳥越氏に「素晴らしい施設をつくりましょう」（当時の岸知事）と願いで譲り受け、府だけでなく多くの出版社や研究者、府民が今日まで育んできたものです。

また、漫画蔵書は全体の14%と説明されているとおり、「漫画図書館」などと事実を捻じ曲げる発言は、およそ行政に携わるものの発言ではありません。さらに「やる気がない」などの発言に対しても、文学館の北田常務理事は、「7月の来館者は昨年の4割増、8月は5割増になった」と反論

したと報じられています（毎日新聞）。知事が個人的な児童書への感覚と「集客」だけを尺度に「隠し撮り」までして、これまで積み上げてきた貴重な文化と研究機能を葬ることは絶対に許されません。

府政の私物化許さず、地方自治を守ろう

知事は巨額の人員費削減を強行し、府職員が身を削ったからと返す刃で府民福祉と医療、教育をばっさり切り捨てました。時間外朝礼を批判されれば一方的な敷地内禁煙を安全衛生協議会を使って押し付け、休憩時間廃止し、職員の集いでは「気に入らないなら職を変えて」、政策に疑義があるなら「部長になってから言つて」など、職員の本音な意見は聞こえず、今度は人権無視の陰湿な「隠し撮り」で職員監視。知事と職員、部局・所属と職員、そして府民との信頼関係など築けるはずがなく、地方自治体としての「いい仕事」にもつながりません。また、こうした環境下での成績主義強化が何をもたらすかは一層明らかです。

府職労は知事に対し、人権蹂躪の「隠し撮り」の中止とテープの廃棄、国際児童文学館と「隠し撮り」した施設の職員・利用者・府民への謝罪を要求します。